

子どもや家庭の状況は様々です。 それぞれに合わせて使える 多様な子育て支援策の充実を!



ご存知 ですか?

平成23年度の、
練馬区立保育園の運営状況は

★ 保育園入所者数 **8,547人** (0~5歳児)
このうち0歳児 **682人**

★ 児童一人あたりの平均公費負担額 **月額約17万円**
特に0歳児一人あたりの公費負担額は**月額48万円**



練馬区の年間予算の**約8%**にあたる、
年間約179億円の保育所関連公費負担額のうち、
約21%の**約39億円**が**0歳児**に投入されています。

最近の子育て支援策は、保育園の増設など、待機児童の解消に
主眼をおいていますが、財政的な面からも、本来は、
年齢や家庭の状況にあわせた多様な育児助成が望ましいと考えます。

保育園増設だけでなく多様な子育て支援策を

例えば、経済的理由で0歳児を保育園に預けている家庭のうち
本来は、自分の手で子育てをしたいと希望する家庭に対し

★ 平均的な育児費(ミルクやおむつなど) **月額約2万円**

★ 30代女性の平均月収約25万円の**7割**の**月額約18万円**

合計子ども一人当たり**月額約20万円**程度の公的助成をした場合、
保育所での保育経費に比べ、公費の支出は**半分以下**となる上、
家庭での子育てが可能になります。



幼児の肌を離すな 児童の手を離すな 少年の心を離すな

子育て支援策は、子どもの立場に立ったものであるべきです。
親と子がともに過ごせる時間は、意外と短いもの。
一番大切なことは何か、考えてみたいものです。



常任委員会 文教児童青少年委員会 委員長

特別委員会 総合・災害対策等特別委員会 委員

各種委員会 民生委員推薦会

美術館運営協議会

ご相談は... **関口かずお 事務所**

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>



自民党

関口 第五十九代議長 かずお

変わるもの、 変わらないもの

意外だ、とおもわれるかも知れないが、私は、機械でもシステムでも、「これはー」とおもったものを使い始めるのが、早い。

議員になる前、自動車整備会社をしていた時には高圧洗浄機を、議員になってからは、名簿管理ソフト、ポケットベル、携帯電話等、とにかく、自分の仕事の役に立つとおもものは、何でも導入した。

議員になって二年目、各支所や区立図書館への「電算システム」導入を提案した。一般質問での、「電算化」についてのだらりを読み返してみると、ファックス端末は、石神井庁舎に一つしかない、等、今では考えられない職場環境である。「電算機」すなわちパソコンも、その能力は開発途上だったが、だからこそ、新しい技術を導入することで、業務改善できるのではないかという、駆け出した頃の自分の、議員としての「熱」をおもいだす。

当時漠然と考えていたことが、めざましい技術の発展で、今では「当たり前」になっているが、機械や技術やシステムが、どんなに発達し、便利になったとしても、それを使うのは人であり、それはあくまで道具であり、その道具を、何に、どう活かすのかで、人にもたらす結果は、大きく違ってしまっているのではないかとおもった。

今夏の参院選から、インターネットによる選挙運動が解禁された。公的な手続きから日々の買い物まで、何でもインターネットで済ませられるようになってきている現在、選挙にもそれを活用しようという、世の中の流れを取り入れた法改正である。
私自身、早くからホームページやブログを活用し、理念や活動を発信してきた。インターネットで、選挙運動の可能性が広がることには、何の異議もない。問題は、その使い方、使われ方、だろう。

近い将来、選挙は、候補者をメールや動画で見ると選び、投票は、自宅でワンクリックするだけ、などということになるかもしれない。そうすると、選挙が、より「身近なもの」になるような気がするが、それと同時に「手軽なもの」となり、政治家を選ぶことの重大さを、見失ってしまうのではないかと、そんな危惧もまた、持っている。

通販サイトで商品を買って、失敗したと思ったら、すぐにも返品可能だが、政治家はそうはいかない。それほど手軽なものではない。選挙と、その結果の政権が、次の選挙まで続くことが、国の将来や政治をどれほどに左右してしまうかは、ご存知のとおりである。
選挙制度や法律は、時代に合わせて改変されるものだし、政治や政治家の性質も変わっていくだろう。しかし、周囲がどんなに変わろうとも、私の、私を支えてくれる人たちに対する、おかげさまの気持ちと、政治家としての信念だけは変えない。そう、決めている。